

2012年4月9日

関係各位

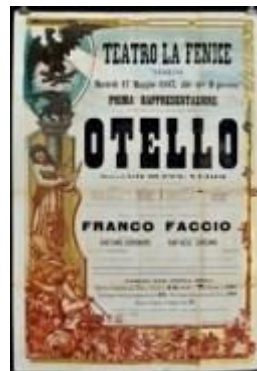
 株式会社朝日新聞社
 株式会社朝日ビルディング
 フェスティバルホール

フェスティバルホール 2013年4月10日(水) オープン
こけら落としは「フェニーチェ歌劇場」
オープニングラインアップのご紹介

現在、建て替え中のフェスティバルホール(大阪市北区中之島 2-3-18)は、2013年4月10日(水)、こけら落とし公演にイタリアの名門オペラハウス・フェニーチェ歌劇場を招き、ガラコンサートでオープンいたします。このコンサートは再開される大阪国際フェスティバル(P.3 に注)のスタートともなります。その後も、ミュンヘン・フィル、大阪フィルをラインアップ。さだまさし、谷村新司ら旧ホールでおなじみだったアーティストも顔をそろえます。フェスティバルホールが入る中之島フェスティバルタワーは今年10月末に竣工いたしますが、フェスティバルホールについては約5カ月かけて音響調整などを行います。同タワーのロゴが決定、新しいWEBサイトも開設し、開業に向けた準備が進んでいます。



フェニーチェ歌劇場ニューイヤーコンサート (2005年)
 (C)Michele Crosera



1887年5月17日、ヴェネチアのラ・フェニーチェ座での「オテロ」初演時のポスター (2種類)

□ヴェネチアの至宝・フェニーチェ歌劇場、8年ぶりに来日

フェニーチェ歌劇場は、1792年に創設されたイタリアを代表するオペラハウスの一つです。220年の歴史の中でたび重なる火災にもかかわらず「フェニックス(不死鳥)=フェニーチェ」の名のごとく甦り、イタリアオペラの伝統を育んできました。

8年ぶり3回目となる来日公演では、イタリアの作曲家・ヴェルディの最高傑作「オテロ」を上演します(特別協賛・大和ハウス工業株式会社)。シェイクスピア原作によるこのオペラは、ヴェルディ生誕200年を記念し同歌劇場が新たに制作します。2012年11月にヴェネチアで初演され、その後、同歌劇場以外で演じられるのはフェスティバルホールが初めてとなります。

□2013 年度フェスティバルホールのラインアップ

こけら落とし公演に引き続き、国内外の著名アーティストがラインアップされています。クラシックでは、ロリン・マゼール指揮のミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団(特別協賛・ビー・エム・ダブリュー株式会社)、大植英次指揮大阪フィルハーモニー交響楽団が登場。大阪フィルはマーラーの交響曲第 2 番「復活」でホールのオープンを祝います。さだまさし、南こうせつら旧フェスティバルホールを愛したアーティストも 4 月に顔をそろえます。4 月以降は弦楽器の名器、ストラディヴァリウスを 10 数台集めたストラディヴァリウス・サミット・コンサートも予定しています。8 月には、恒例の小林研一郎指揮大阪フィルによる「3 大交響曲の夕べ」を開催します。熊川哲也 K バレエカンパニー、ニューヨーク・シティ・バレエなどのバレエも上演されます。

このほか出演が予定されているアーティストは以下の通りです。(順不同)

矢野顕子
 谷村新司
 キース・ジャレット
 槇原敬之
 THE ALFEE
 郷ひろみ
 高橋真梨子

□フェスティバルホール・クラブでチケット優先予約

会員組織「フェスティバルホール・クラブ」の募集を明日 10 日(火)より開始します。フェスティバルホール主催公演や大阪国際フェスティバルのチケットの優先予約、一部公演の料金優待、フェスティバルホール・ニュース(年 4 回)の送付などの特典があります(年会費は税込み 3,000 円)。フェスティバルホールの WEB サイト(<http://www.festivalhall.jp>)もリニューアルし、同クラブの入会受け付けやコンサート情報などをお伝えしていきます。こけら落とし公演を含む日程などの詳細は 2012 年 9 月中旬に発表し、その後、チケットの販売を開始いたします。



1. フェスティバルホール・クラブ会員カード

□中之島フェスティバルタワーのロゴ決定

ロゴマークのデザインは、タワーの外観の丸みを生かし、Festival(祝祭)、Flagship(旗艦)、Future(未来)に通じる「F」をモチーフとして、中之島フェスティバルタワーの品格を表現しています。フェスティバルホールを印象づける華やかな「赤」と「金」を基調にした色合いとしました。



2. 中之島フェスティバルタワー ロゴマーク

□中之島フェスティバルタワーの新しいWEBサイトを開設

商業施設「フェスティバルプラザ」の情報などを掲載した中之島フェスティバルタワーのWEBサイトを新たに設け、本日からオープンいたします。

URLは次の通りです。<http://www.festivaltower.jp>

(注) **大阪国際フェスティバル** 1958年、旧フェスティバルホールのオープンとともに始まった音楽祭。2008年までに50回開催し、カラヤン、バーンスタイン、ベルリン・フィル、ウィーン・フィル、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座などが登場、国内外で高い評価を得ました。2013年4月、フェスティバルホールのオープンに合わせ、第51回として開催します。

以上

この報道資料は、大阪市政記者クラブ、大阪経済記者クラブ、関西レジャー記者クラブ、旅行ペンクラブ、レジャー記者クラブ、日本旅行記者クラブ、ラジオ・テレビレジャー記者会に配布しています。

【お問い合わせ先】

▽フェスティバルホールおよび公演内容については

・フェスティバルホール TEL. 06-6231-2221
(受付時間: 平日 10:00~18:00、土日祝休み)

▽建設全般、ロゴについては

・朝日新聞社広報部(大阪) TEL.06-6201-8435

▽商業施設「フェスティバルプラザ」およびテナントリーシングについては

・朝日ビルディング TEL. 06-6231-7523
(受付時間: 平日 10:00~18:00、土日祝休み)
までお願いします。

資料1 フェスティバルホールについて

1958年に開館した旧ホールは、「天井から音が降る」と称されたその音響特性ともあいまって、国内有数の音楽ホールとして知られ、閉館までの50年間に4,000万人が訪れました。生まれ変わるフェスティバルホールは、明瞭な音の響きや幅30メートルの広い舞台間口など旧ホールの特徴を継承しつつ、最新設備を備えたあらゆるジャンルに対応する「音楽の殿堂」として新しいスタートを切ります。



3. フェスティバルホール 完成予想パース

□2,700の客席

新ホールは、中之島フェスティバルタワーの2階から7階に位置し、客席は旧ホールと同じ2,700席(1～3階席)です。座席も一回り大きくし、前後間隔も4センチ広げ、ゆとりある鑑賞空間を実現します。また、舞台間口は、これまでの固定式から、30～25メートルの可動式となります。さらに舞台の奥行きや袖舞台の幅を広げることで、総面積は1,580平方メートルへと倍増、大道具などを吊るバトンも、これまでの33本から54本になり、オペラやミュージカルなどより複雑で迫力ある演出が可能となります。

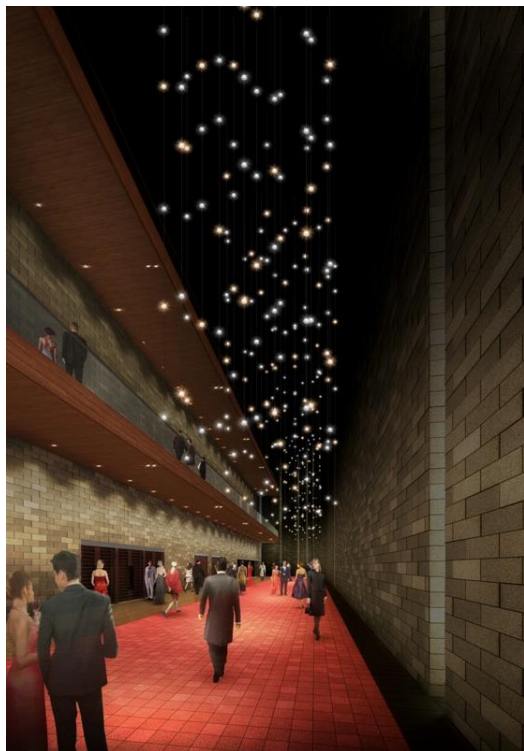
□最新の防振・遮音構造

ホールに入る中之島フェスティバルタワーは地下鉄四つ橋線・肥後橋駅と京阪電鉄中之島線・渡辺橋駅に直結しています。鉄道の振動や騒音を遮断するため、ビルの壁の中にホールを設ける「浮き構造」を取り入れ、ビル本体とホール天井、床、壁の間にゴムを挟み込みました。

ロックコンサートなど、ホール内の音が、オフィス部分や外へ漏れることも防ぎます。

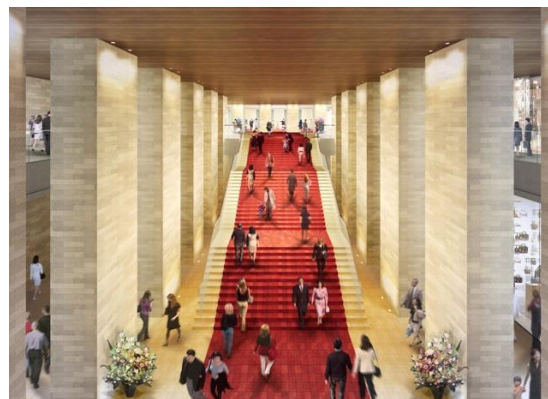
また、舞台照明や美術道具などの搬出入でも、荷さばき場に 11 トン車 3 台が停車できるほか、11 トン車の荷台にほぼ等しい大きさの大型エレベーターが舞台袖まで直行します。

□重厚なメインホワイエ



4. メインホワイエ パース

4層吹き抜けのメインホワイエ(5階)は、ビル外壁を彩るレンガを内装に使い、旧ホールの重厚さを引き継ぎました。同時に赤じゅうたん、LED を用いた照明で音楽ホールならではの華麗な非日常を演出します。ホール入口がある 2 階にはレストランが入り、演奏会の前後に落ち着いて食事が出来る空間となります。



5. エントランス大階段 パース

□女性トイレは3倍に

旧ホールは、ほかの多くのホールと同様、女性客の多い公演のときは、幕間に長い行列ができました。新ホールは女性の個室トイレを 3 倍近く(125)に増やしました。車椅子で来られても、エレベーターで移動が可能で、車椅子対応の客席も増やしました。

資料2 中之島フェスティバルタワーについて

中之島フェスティバルタワーは、大阪のビジネスと文化の中心地である中之島に建設されている地上 200 メートルの超高層ビルです。地下 1 階から地上 2 階に商業施設、2 階から 7 階はフェスティバルホール、9 階から 12 階には朝日新聞大阪本社が入ります。高層階はテナントオフィスとなります。

新ビルの特徴は国内トップクラスの耐震性と省エネにすぐれた環境性能です。ホール上部に免震ゴムとオイルダンパーを使った中間免震構造を採用。阪神大震災級の震度 7 の大地震でもビルの主要機能は維持されます。また、ふたつの川に挟まれた中之島の立地を生かし、河川水利用の冷暖房システムを採用するなど一般的なビルに比べ、約 40%CO₂ 排出量を削減する省エネを実現しました。オフィス部分には LED 照明を全面採用、さらなる省エネを図っています。

中之島フェスティバルタワーの南壁面を飾るのは、同タワーのシンボルでもあるレリーフ「牧神、音楽を楽しむの図」です。旧ホールにあったものと同様、信楽で作られました。太陽、月、星のもとギリシャ神話に登場する音楽好きの牧神（パン）が竖琴や笛を奏でる様子を表現した作品です。彫刻家の故建畠覚造氏がデザインしました。フェスティバルホールの建て替えにあたって、再制作されたものです。一番大きな牧神は縦約 6.3 メートル、横 5.7 メートルあり、旧作品より一回り大きくなりました。新しいレリーフも、中之島フェスティバルタワーの顔として、また中之島の風景として、多くの人々に末永く親しまれるものと思います。



7. 中之島フェスティバルタワー 全景



6. レリーフ「牧神、音楽を楽しむの図」

以上